

財団法人8020推進財団
平成22年度歯科保健活動事業助成交付事業報告書抄録

1.事業名:保健医療介護職種への歯科実態調査および歯科保健啓発事業

2.申請者名:千葉県歯科医師会 会長 浅野 薫之

3.実施組織: 事業主体:千葉県歯科医師会 地域保健医療委員会
協力団体:千葉県介護保険関係団体協議会 千葉県歯科病診連携連絡協議会 千葉県歯科衛生士会
食育を支える千葉県口腔保健円卓会議

4.事業の概要:

歯科保健医療の重要性に関する認識は、地域住民、行政はもとより、保健医療介護職種にもかなり浸透してきているが、自らの健康が後回しになりやすいのが保健医療介護職種の傾向である。

そこで千葉県歯科医師会では、平成 22 年度において、県下病院および介護施設内の保健医療介護職種(以下、関係職種という)に対し、事業所歯科健診を行った。

その結果、う蝕罹患率は各世代とも全国平均より下回り良好な結果を得たが、歯周組織の炎症を調べる診査では炎症の程度示す数値が全国平均を上回った。

また、口腔に関する意識調査アンケートでは間食回数が多く、「歯周病と全身疾患との関係をご存知ですか」の問いに対し、「知っている」との回答が 42%に対し、「知らない」との回答が 45%であった。「むし歯や歯周病予防及び口腔機能向上について知りたいですか」の問いについては、「知りたい」との回答が 37%、「知りたいが時間がとれない」との回答が 48%で、85%の方が情報提供を望んでいた。

これを受け本年は引き続き、関係職種に対し歯科実態調査を行うと共に、受講を希望される病院・介護施設に対し、う蝕・歯周病予防及び歯周病と全身疾患、口腔機能向上に関する講座を設け、関係職種に対し歯科保健医療の重要性を周知することを目的として事業を実施した。

5.事業の内容:

(1) 事業周知のための会議

- ① 食育を支える千葉県口腔保健円卓会議において事業周知とアンケート項目について協議をした。
- ② 千葉県歯科病診連携連絡協議会理事会において事業周知とアンケート項目について協議をした。
- ③ 千葉県介護保険関係団体協議会に事業への協力要請を行った。
- ④ 千葉県介護保険関係団体協議会構成団体に対して事業への協力要請を行った。
- ⑤ 特別養護老人ホーム名木の里に事業への協力要請を行った。
- ⑥ 本事業の総括会議を行った。

(2) お口の健康に関する講座の開催

- ・実施要領に基づき、関係職種を対象とした講座を4回開催した。
- ・歯科疾患予防及び口腔ケアと全身疾患との関係に関するリーフレットを作成し、配布した。

(3) 関係職種を対象とした食生活と口腔の健康に関するアンケート調査

- ・千葉県介護保険関係団体協議会加入7団体の施設および構成員等に対しアンケート調査を実施した。
- ・実施要領に基づき、講座終了後に受講者に対しアンケート調査を実施した。

(4) アンケート結果集計と事業効果の分析 アンケート結果概要

1. アンケート回答総数 228 名であった。
2. 男女比は、3 対1と女性が多かった。年齢は 40、50 歳代が半数であった。
3. 1 日あたりの労働時間は「9 時間未満」が 58.5%である一方、「10 時間以上」が 10%あった。
4. 食事の回数に関しては、3 食とも 90%以上が摂取していたが、食事の時間に関しては、半数が「不規則」であった。
5. 間食に関しては、79%が間食を摂っており、割合は1日に 2 回以上が 41%あった。
間食内容は、せんべい、クッキー、スナック菓子の順であった。
6. 自身の口腔内の健康に関しては、89%が「関心あり」と回答している。また、口腔内に不満や何らかの不自由を感じているとの回答が 78%あった。
7. う蝕予防に関しては、70%が「定期健診を受診」、歯磨きが必要と認識しているが、「特に何もしていない」との回答も 26%あった。
8. 歯周病予防に関しては、58%が「定期健診を受診」、歯磨きが必要と認識しており、さらには 25%が「舌みがき」、「歯間ブラシの使用」、「禁煙」と回答している。
9. 歯周病と全身疾患との関係に対する認識に関しては、57%が「知っている」と回答している。また、全身疾患と口腔に関する情報提供の希望に関して、「知りたい」、「知りたいが時間がない」との回答が 93%あった。

6.実施後の評価(今後の課題)

「食生活と口腔の健康に関するアンケート調査」では、前年の調査結果と同様に、就労中に間食をしている方が多かった。90%以上が3食とも摂っているにも関わらず、就労時間が比較的長い上、食事の時間が不規則であることが原因と推測される。クッキー、スナック菓子等のう蝕を誘発しやすいものを好む傾向があり注意喚起が必要であると思われる。保健医療介護職種を対象としたためか、全体として口腔内に関する認識は比較的高く、全身疾患と口腔に関する情報提供を望んでいる方が 90%以上あったことから、関係職種に対して行った講演は効果的であったと思われる。情報を知りたいが、「時間が無い」との回答に対しては、本人自身の健康管理の為にリーフレット等の配布が有効であると思われる。また、医療従事者として、患者さんへの口腔に対する健康管理、機能向上への積極的な取り組みへと繋がるものと考え。今後は、受講者の意識がどのような行動変化があったかを追跡調査を行うとともに、全身疾患と口腔との関係に関して、さらなる周知を継続して行う必要があると思われる。